

確かに、静かに、
平和をつないでいくために――。



沖縄戦終結から80年。あの戦争を体験した人々の声を、私たちが直接聞ける機会はこれからますます減っていきます。そして、戦争は「過去の出来事」として語られる時代がやってきます。そのとき、私たちは先人たちに託された平和を大切に、守り、未来へと手渡していけるのでしょうか。

「平和」とはなにか――。辞書には「戦争や争いがなく、穏やかな状態」とあります。いつもの朝。通い慣れた道。家族の笑い声。私たちが当たり前に過ごしている身近なこの日常こそが、「平和」のカタチだと。

ただ、その日常が脅かされたとき、多くの人は正義の名の下に戦いを選んでしまう。見えなくて、触れら

れないからこそ、相手の平和を想像することは難しく、すれ違いや争いが生まれてしまうのかもしれない。

でも、自分にとって大切なものがあるように、誰かにとっての大切なものも、きつとある。もし、その違いを超えて、互いの平和を認め合うことができたなら、私たちはもう少し優しい世界を作れるはずです。

何が正しいのか、何を信じるのか。それぞれの答えがすぐに見つからないかもしれない。それでも、今ある日常を少しでも深く見つめてみてください。守りたいもの、大切にしたい誰かの顔がきつと浮かんでくるはずです。そして、そうした想いを胸に、私たちは進んでいくのでしょうか。